

非認知能力のキーワード

- ・やりぬく力
- ・自制心
- ・自己肯定感
- ・社会性

1 主題

自他を認め合い、互いの思いや願いを大切にできる子に
(国語科を中心に)

2 主題設定の理由

本校では、めざす子ども像を「自ら考え、表現する子・人を大切にできる子・持つ力を出せる子・未来を思いえがく子」とし、学校教育活動全体で取り組んでいる。

その具現化に向け、2019年度からは、伝えたり受け止めたりする言葉を広げる手立てとして、文章に表すという主体的な活動が有効であると考え、国語科における「書く」活動に焦点をあて研修に取り組んできた。身のまわりのことからテーマを選んで書く、時間や字数を決めて書くなどいろいろなバリエーションで書く機会を設けたり、授業時間以外にも継続して取り組んだりして書く営みが身近なものになるようにしてきた。書くことに抵抗は少なくなってきたものの自分の思いを表現することや相手の意見を受け入れたり、互いに認め合ったりすることにおける課題が大きかった。

2022年度からは、自分の思いを表現したり、互いに認め合ったりするためには、すべての児童が安心して学べる集団を教師が意図的につくっていく仲間づくりが基盤であり、仲間づくりをすすめていく私たち教職員こそがしっかりと人権感覚や子どもたちとの関わり方についての研修を深めていくことが重要であると考え、主題を「自他を認め合い、互いの思いや願いを大切にできる子に」で研修を進めてきた。自分の思いや考えを書いたものを交流するなどして少しずつ互いの思いを聞くことができるようになってきたものの以下のような課題がまだ見られている。

- ・自分の気持ちや考えを言葉で表現したり伝えたりすることが苦手である。
- ・語彙が少なく、順序立てて説明することができない。
- ・相手のことを考えずに自分の思いばかりを話してしまう。
- ・自己肯定感が低く、自信が持てない。
- ・相手の思いや考えを受け止めたり、互いに認め合ったりすることが苦手。

これらは、互いのいろいろな姿を知りあったり、「ありのまま」を受け入れたり、みんなで考えあつたりするような機会を作り切れず、十分な仲間づくりや授業づくりに取り組んでくることができなかった私たち教師の課題である。私たち教師がどの子どもも安心して学べる仲間づくりや授業づくりについての研修をさらに深めていくことが重要である。

こうした課題をふまえ、2024年度は、すべての教育活動の基盤である仲間づくりを

学校全体で進めながら自他を認め合い、互いの思いや願いを大切にできる子を目指して研究主題を設定し、国語科を中心に研修を進めていくこととした。

3 具体的方策

(1) 「書く」ことを通じて思いや考えを伝え合い、受け止め合う学習の充実を図る。

「書く」ことを通じて思いや考えを伝え合い、受け止め合う学習に継続的に取り組んでいく。「書く」ことは自分の考えを言語化することであり、書くことによって自分の考えを整理したり、自分自身をふり返ったりすることができる。また、互いの書いたものや考えを伝え合う中で、友だちの考えを知ったり、共感したりする機会となる。そうした体験を積み重ねていくことによって、自他の思いや考えの共通点やちがいに気づき、仲間の思いや考えを受け止められるように進めていく。学びがより深く豊かになっていくと感じられるよう互いの思いや考えを伝え合い・受け止め合う活動の充実を図り、児童の豊かなつながりをめざしていきたい。

【思いや考えを伝えるために】

① 「書く」ことを通じて、思いや考えを伝える学習の充実を図る。

書くことによって自分の考えを言語化し、整理することができる。「書けた」「できた」という達成感は、やりぬく力や自己肯定感を向上させるだけでなく、自分の書いたものを他の人に伝えたい、他者と繋がっていききたいという書くことに対する意欲を引き出すことにつながる。また自分をふり返って書くことを継続していくことで自制心の向上につながっていく。各学年の目標をふまえて、指導を継続し、書くことを児童の中で日常化していきたい。

- ・「書く」単元での学習
- ・日記、作文
- ・ことばの学習 など

② 「書く」ための手立ての充実を図る。

- ・児童が興味関心をもてる題材の検討
- ・イメージマップ、ワークシート、付箋などを活用した情報収集の充実
- ・読み取ったことをや自分の考えを簡潔にまとめるための指導の手立ての充実
- ・書くことが苦手な児童への手立ての検討
(事前支援、例文や定型文、書き出し文等の掲示など)

③語彙力を高める手立ての充実を図る。

- ・「ことばのたからばこ」の活用
- ・国語辞典の活用
- ・読み聞かせや読書活動の充実
- ・視写の取組 など

【思いや考えを伝え合い・受け止め合うために】

①互いの思いや考えを伝え合い・受け止め合う活動の充実を図る。

書く活動

- ・伝える相手や場面の設定や目的を意識させる。
- ・意見を伝えたり、書いたものを見直したりする視点を明確にする。

伝え合い・受け止め合う活動

- ・ルールを各場面で設定し、徹底する。
- ・自分と友だちの思いや考えを比較しながら聞くよう発見や共感など、聞く際の視点を持たせて活動する。
- ・交流の中で、補助発問等を活用し、多様な考え方にふれ合い、互いに認め合える機会を大切にする。

②伝え合い・受け止め合うための手立ての充実を図る。

- ・ペア・小グループ・全体での交流
- ・ポスターセッションなどでの交流
- ・ホワイトボードや付箋などを活用した交流
- ・児童の作文を教材にした交流
- ・ICTを活用した交流

(2) 一人ひとりが安心して学べる仲間づくり・授業づくり

自他を認め合い、互いの思いや願いを大切にしていくには、一人ひとりが安心して学ぶことのできる仲間づくり・授業づくりが土台となる。

仲間づくりとは、すべての教育活動の基盤となるものであり、どの子どもも安心して学べる集団を教師が意図的につくっていくことと捉えている。「仲間」とは、自分の思いやしんどいことを互いに伝えることができたり、受け止め合えたりする関係であると考えている。

授業づくりでは、子どもたちが「わからないことがわからない」と言える学級であり、

困っていることを互いに助け合って高め合える授業にしていきたい。そのためには、一人ひとりが学習だけでなく生活の中で感じている不安や悩みを共有し、ともに課題を克服し、乗り越えようとする集団をめざす「仲間づくり」を大切にしていけることが必要である。

①「見続ける子」を中心としたレポート研修会

「教育的に不利な環境のもとにある子ども」のしんどさに寄り添い、厳しい環境にある児童がクラスの中で居場所を見出せる仲間づくり、いじめや差別をなくしていこうとする仲間づくりをめざしている。そのため子どもたちの日々の言動の中から取組の起点となる事象を見逃さない人権感覚と、計画的に取り組むための実践力を高めるために行う研修会である。

レポート作成の際には、「見続ける子」一人に焦点を当てて書く。子どもの置かれている状況や思い、生活背景などについては憶測ではなく、事実に基づきながら見つけ、人権課題を明らかにしながら、今後の取組を計画していく。レポート研修会では、その成果と課題等について意見を交流することで、子どもの理解を一層深め、今後の取組につなげる。

②人権教育カリキュラムの作成

「生活・人権総合学習」と年間を通した「仲間づくり」の2つの柱で明記した学年別の人権教育カリキュラムを毎年度学級の実態をとらえ再編成していく。

「生活・人権総合学習」では、各学期の重点取組を記載し、個別的人権問題を解決するための学習について系統的に取り組んでいく。また、学級の実態に合わせてみんなのひろばを活用していく。

「仲間づくり」では、生活や思いを書いたものを交流して仲間づくりにつなげたり、子どもたちの背景を深めたりしていく。

③外国につながるのがあるゲストティーチャーとの出会いの場づくり

本校では、在籍している外国につながる子どもたちが年々増加しており、その子たちへの理解が十分といえない状況がある。どの学年でも外国につながるの方と出会い、理解を深められるよう学年の発達段階に応じた場づくりをしていく。

(3) 教職員の人権意識・授業力の向上

「隠れたカリキュラム」は、教職員が意図する、しないに関わらず学校生活を送る中で児童はたくさんのことを学んでいくということを意味している。私たち教職員がどのように対応しているかで、子ども同士の関わり方も大きく変わってくる。子どもたちの人

権意識を向上させるためには、まず自分たちの人権意識を問いなおすことが必要である。子ども一人ひとりを大切にできているか、子ども一人ひとりの特性を理解しているか、特性を理解した関わり方ができているか、教師の好ましくない関わり方が子どもたちに広がっていないか互いに言い合える教職員集団でありたい。家庭訪問や日記、学童からの聞き取りなどで子どもの思いや背景などを把握し、それらを子どものようす交流会で共通理解した上で進めていくことを大切にしていく。

また、教職員の授業力を向上させるため、授業の相談等を日常的に教職員全体で情報交換をする機会を持つとともに、「授業公開ウィーク」の設定をするなど互いに授業を見合う機会を多く持ち、発問や指導方法などの意見交換を大切にし、互いに高めあう教職員集団を目指していきたい。

①職員研修

- ・仲間づくりについて
- ・国語科「書く」について

②職員間研修

- ・ミニ研修会
 - 「子どもへの対応」
 - 「ICT活用」
- ・授業公開ウィークの設定

(4) 日常的な取組を共通して行う。

①教師の共通理解を図る。

- ・「めあて(自分自身の見とおし)」と「ふり返り(自分自身を認める)」を明示する。
- ・教育活動全体で言語活動(話す・聞く、読む、書く、伝え合う)を重視して取り組む。
- ・教師の正しい言葉遣いなど児童の言語活動がよりの確に行われるように、学校生活全体の言語環境を十分に整える。
- ・語彙の習得を進め、表現力を高める。
- ・ワークシートやホワイトボード、付箋を活用する。
- ・ペア・グループ活動を充実させる。
- ・ICTを活用し双方向の学習を充実させる。
- ・学習支援ボランティアを活用する。

②学習規律を徹底し、学習環境を整備して授業効率を上げる。

- | | | |
|-----------------|----------|----------|
| ・よい姿勢 | ・手の挙げ方 | ・あいさつの仕方 |
| ・立ち方 | ・すわり方 | ・辞書引きの習慣 |
| ・掲示物の統一 | ・整然とした教室 | |
| ・見やすいノートの使い方指導 | | |
| ・安心して過ごせる雰囲気づくり | | |

③児童アンケートを実施し、実態を把握する。

4月と12月に児童に対しアンケートを実施する。(1年生は7月と12月)アンケートの中から「国語の勉強は好きですか。」「自分の気持ちがきちんと伝わるように友だちに話していますか。」等の項目について分析し、取組の前後の変容を分析していく。

④読書活動・学校図書館活用の推進を図る。

- ・読み聞かせボランティアによる読み聞かせ
- ・図書巡回指導員の活用(ブックトーク・調べ学習の支援など)
- ・教師や縦割り班活動による児童の読み聞かせの推進
- ・授業での並行読書の充実

⑤ICTの活用の推進を図る。

- ・板書計画をもとにしたICTの効果的な活用の検討
- ・児童の作品等を拡大掲示した視覚に訴える授業の工夫
- ・オクリンク、パドレッドなどを活用した相互に学び合う授業の工夫など
- ・ICTの効果的な活用の授業実践の交流

☆教師の共通理解のために☆

(1)学習規律、共通理解をもつ。

- ①「めあて(自分自身の見とおし)」と「ふり返り(自分自身を認める)」を明示し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
- ②授業をはじめ教育活動全体で、言語活動を重視して取り組む。
- ③順序よく話すように指導する。
- ④分からないことも話すようにする。
- ⑤友だちが話したことを自分の考えと比べながらしっかりと聞く。
- ⑥話し手に反応したり、共感したりする。
- ⑦言葉をたくさん学び、表現力を磨く。

- ⑧ワークシートやホワイトボード、付箋を活用する。
- ⑨ペアやグループでの活動については、視点と手順を明確にし、共同して授業を深めていくことができるようにする。
- ⑩学習支援ボランティアを活用する。(学期末の算数復習、2年の定規、3年のコンパス、4年の分度器、他教科〔図工総合生活科の支援、家庭科の裁縫、調理実習など〕)

(2) 授業における学習規律・学習環境を徹底し、授業効率を上げる。

- ① 全校で、「ピン・ピタ・グー」を合言葉にして、正しい姿勢を徹底する。
- ② 鉛筆の正しい持ち方ができるようにする。
- ③ 教室には「聞き名人」「話し名人」「声のものさし」「学習用具の配置」を掲示し、ルールの定着を図る。
- ④ 授業時の机上の整頓ができるようにする。(教科書、ノート、筆箱の配置)
- ⑤ 黒板の周囲に掲示物を貼らない。
- ⑥ 教室は、ファイル、雑巾等きちんと整頓し、整然としている。
- ⑦ 気持ちよく話せるような学級づくりをする。
- ⑧ 辞書引きを習慣づける。
- ⑨ 見やすいノートの使い方ができるようにする。
(一行ライン、日付、ページ、問題番号、一行二行空け、定規を使って線を引く。《筆算も》、下敷きを敷く、丁寧に書く等)
- ⑩ 箱形筆箱の定着(無地 全学年)、無地の下敷き。
- ⑪ 授業はチャイムで始まり、チャイムで終わるように努める。
- ⑫ はじめと終わりのあいさつは、きちんとした姿勢で、明るく元気に。
日直 「今から、2時間目の算数の勉強を始めましょう。」
全員 「始めましょう。よろしくお願いします。」
日直 「これで、算数の勉強を終わりましょう。」
全員 「おわりましょう。ありがとうございました。」
- ⑬ 配付物は「どうぞ。」「ありがとう。」
- ⑭ 返事は「はいっ。」
- ⑮ 挙手は、天井に突き刺さるように挙げる。

年間計画

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修会(研究主題・研究内容・研究組織・研修計画等) ・児童アンケート実施、分析 1回目 ・全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック(自校採点、入力、分析)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画作成 ・校内研修会 「非認知能力について」
6～7月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修会(第一回「見続ける子」を中心としたレポート研修会) ・人権研修会「実践研究大会レポートの検討」 (・授業公開ウィーク) ・算数教室
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会「書く活動の実践交流」 ・全体研修会(全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック分析) ・ICT研修会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 1年国語科 9月18日<水>(事後研) ・授業公開ウィーク
10～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業 3年国語科 11月12日(火)(事後研) ・集会発表(研修に関わって)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート、分析 2回目 ・全体研修会(これまでの取組の反省・3学期に向けて)
1～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修会(第二回「見続ける子」を中心としたレポート研修会) ・全体研修会(2024年度の反省) ・みえスタディ・チェック(自校採点、入力、分析) ・全体研修会(2025年度の方角性について) ・授業公開ウィーク